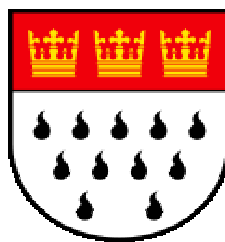


Köln (ケルン)



ノルトライン＝ヴェストファーレン州に属するケルンは、ライン川中流に位置する歴史のある古い街です。

人口は約100万人で、オーデコロン（ケルンの水）の発祥の地としても有名です。観光地としても人気のある街で、街のシンボルとなるケルン大聖堂は世界遺産に登録されています。

1. FC Köln (1.FC ケルン)

ブンデスリーガ1部所属

創設年：1948年

チームカラー：赤と白

ホームスタジアム：ライン・エネルギーシュタディオン（60,400人収容）

愛称：ガイスベッケ（雄ヤギ）



ブンデスリーガ発足後の初代王者。奥寺康彦氏や日本でもおなじみのリトバルスキー氏が所属していたチームであり、過去にリーグ優勝3回、カップ戦優勝4回の実績を誇ります。

現ドイツ代表でバイエルン・ミュンヘンFWのポドルスキーが2005年まで在籍。近代的なスタジアムは2006年のワールドカップで使用された。チームマスコットは、ヤギのヘネス。スタジアムには本物のヤギが登場し、会場にはヘネスの泣き声がこだまします。ユースチームは、各年代でユース最高のリーグに所属して活躍しています。



<ケルン対静岡県選抜>

Rhein Energie Stadion (ラインエネルギー・シュタディオン)

ブンデスリーガ所属の 1. FC ケルンのホームスタジアム。

コンフェデレーションズカップやワールドカップの試合会場としても使用されました。収容人数は 60,400 人。

1923 年、ミュンダースバッハ・シュタディオンとして建設されたスタジアムは、1975 年の改築を経て、現在ラインエネルギー・シュタディオンと呼ばれています。ラインエネルギーは、電気、ガス、水のためのエネルギー供給企業。

スタジアムはサッカーだけではなくコンサートにも使用され、ローリングストーンズやマイケル・ジャクソン、ガンズ&ローゼスなどの大物アーティストもライブを行っています。スタジアム見学では、グラウンドを間近に見ることができ、選手の控え室や記者会見場、VIP ラウンジなども見学可能です。



会場に設置された電光掲示板では、得点のリプレイやチームメンバーが確認できます。また、マスコット・ヤギのヘネスの鳴き声とともに、各地で行われているブンデスリーガ途中経過も随時報告されます。2階席はスキージャンプ台の滑走路ほどの傾斜が取られていて、会場のどの席からも試合を快適に見渡せます。



<入場門前のスウェーデンサポーター> <ワールドカップ、イングランド対スウェーデン戦>